

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

列1	列2	列3	列4	列5	列6	列7
討議年月日:令和 5年 12月 21日						
公表:令和 6年 2月 29日			事業所名 重症心身放課後等デイサービスwaltz			
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
体制	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	1日の利用定員数に対して適切です。	
	2	職員の配置数は適切である	8	0	基準を満たしています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	0	玄関の段差にはスローププレートを使用しています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0	チーム目標、個人目標を設定し、定期的なスタッフ面談で目標に対する振り返りを行い、業務改善に努めています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	事業所全体でアンケートの結果を共有し業務改善につなげています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	Facebookにて公表しております。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	8		今後、外部評価を実施できるように努めます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	職員が希望する外部研修にはなるべく参加できるよう配慮しております。社内研修も年間を通して定期的に行っております。	
切な支援の提	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	見学・体験、面談後、職員を交えアセスメントや面談内容を確認し、支援会議を行い計画を作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	アセスメントシートを使用し子ども達の状況を把握しております。アセスメントシートを使用し、面	半年に一度健康等のアンケートを行い、成長発達が促せられるよう環境を整え、働きかけていきます。スタッフ間でもしっかりとアセスメントの概要を共有して行きます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	保育士が中心となり、会議で活動内容を話し合っています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	子どもたちの発達状況・特性を踏まえた活動内容になるよう日々工夫しています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	0	季節やご利用時間に合わせた個人、集団プログラムを設定しています。	今後も一人ひとりに合わせた支援内容を設定し工夫をしていけるようにします。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	子どもたちの発達状況・特性、ニーズを考慮した内容で作成しています。お子さまやご家族のニーズや課題、要望を聞き取り支援計画を作成しています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	毎日の朝礼の時に役割分担、活動内容、看護師による子どもたちの体調面の申し送りを確認しうえて支援にあたっています。	

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	毎日の終礼の時に、気付きや振り返りを行い次へ活かせるよう情報共有を行っています。スタッフノートも活用し非常勤職員にも共有しています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	ヒヤリハット、連絡帳などを記入し支援の改善に努めています。業務日報に毎日の記録を残し、次回のご利用に向けての	今後は更に共有の機会を増やし、支援の質の向上に努めていきます。
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	8	0	自己の選択や決定を尊重し、個々の気持ちに寄り添った支援を行っております。	今後も、学校や家庭とは異なる時間、空間、人、体験等を通じて、個々の子どもの発達状況に応じた支援を行ってまいります。
関 や 保 護 者 と	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	児童発達支援管理責任者が参画しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	0	学校からの引き渡しの際に体調等聞き取りを行い、下校時刻の確認等適時行っています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	8	0	ケアが必要な方には主治医の指示書を提出してもらっています。入院の際にはサマリーでの情報共有を行っています。月に一度嘱託医による往診を行っています。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	0	小学1年生の児童に関しては就学前に利用していた児童発達支援事業所や支援学校幼稚園部との情報共有の機会を設けています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	0		今後も学校を卒業し障害福祉サービス事業所等へ移行の際は情報の提供をしていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	5		研修については今後機会があれば参加していきたいです。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	8		この項目に関しては保護者の皆様のご意見を参考に必要性等しっかりと検討した上で機会を設けるか考えていきたいと思っております。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	2	今年度から自立支援協議会への参加をしています。	職員への周知が不足しているため今後は協議会の内容などしっかりと共有していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	8	0	送迎の際や連絡帳などを通して日々の様子や発達状況を伝え合い共有できるようにしています。送迎時や連絡帳にてお知らせ	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	8		今後は感染症対策を徹底した上で(リモートを含)講習会等行えるように考えていきたいです。
省 へ の 説 明 書	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	契約時に規定や利用者負担について記載された重要事項説明書を丁寧に説明しています。	

	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	定期的なモニタリング、必要に応じて面談を行っています。日々の様子等も連絡帳や送迎時にお話することで不安の軽減に努めています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	8		今後は感染症対策等をしっかりとしたうえで、保護者同士の関わりや交流を持てる機会を設定していきたいです。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	相談や申し入れがあった際は窓口担当が迅速に対応できる体制を整えています。また重要事項説明書にも市町村の相談窓口の記載をし、案内している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	SNSを通じて活動や行事の様子を発信しています。毎月活動予定表を配布しています。	
	35	個人情報に十分注意している	8	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	子どもたちの発達状況や特性を理解した上で十分な配慮をしています。	障がいや年齢等に配慮し誤解がないよう意思疎通や情報伝達ができるよう努めています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	8		個人情報や保護者の同意、お子さまの負担減、防犯体制等考慮すべき課題への対応策が整備でき次第計画を進めていきたいと考えています。
常時等の対	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	2		職員の周知はしておりますが、保護者の皆様への周知が出来ていないので早急に対応していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	事前に計画を立て、職員の配置等の打ち合わせをし、定期的な訓練を行って記録に残しています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	年に2回の研修に加え、セルフチェックシートを活用し虐待防止に組織的に取り組んでいます。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	0	身体拘束適正化検討委員会を立ち上げ、討議会を行い記録に残しています。また保護者の皆様には身体拘束適正化の指針を契約時に説明しています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	事前に他の関係機関との情報共有を行い、緊急時の対応など慎重に行えるよう配慮しています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	職員会議で事例を共有して改善に努めています。都度記録し事業所内で共有するように努めています。	